



～より参加者の“身”となる活動へ～
関西部会活動状況報告

XMLコンソーシアムDay

関西部会

株式会社ブレインワークス 芦田 尚人



本日の発表



2007年度活動検討
現状の問題点
解決策検討

2007年度活動報告
1)情報共有
日常業務について紹介
2)技術習得
実装技術
SOA
3)外部団体交流

参加メンバー(今年度活動者)



- | | |
|-----------------|---------------|
| ■ 日本アイ・ピー・エム | 依田 忠高 |
| ■ 日本アイ・ピー・エム | 佐治 和也 |
| ■ 日本ユニシス | 松岡 慎治 |
| ■ コベルコシステム | 幸田 健(サブリーダー) |
| ■ アークウェイ | 丸山 和秀(サブリーダー) |
| ■ プレイニーワークス | 中川 聖悠 |
| ■ プレイニーワークス | 伊川 和宏 |
| ■ プレイニーワークス | 松尾 萌 |
| ■ プレイニーワークス | 宮原 功拓 |
| ■ プレイニーワークス | 芦田 尚人(リーダー) |
| ■ 日本アイ・ピー・エム | 伊藤 健太郎 |
| ■ 日本システムウェア | 松本 真由子 |
| ■ 日立システムアンドサービス | 高畠 裕 |

2007年度活動検討



問題点

自社への活動意義報告

現状の職務と離れた技術は、社業貢献につながりにくい。
活動報告と職務との関連の説明が困難。

活動内容の斬新さの欠如

実装(いまどこ)、情報共有(共有TOOL)、事例収集(2年強)
既存参加者のモチベーション
新規参加者の参入障壁の撤廃

活動者の減少

既存参加者の業務都合
新規参加者の減少 参加による刺激の減少

2007年度活動検討



解決策検討

自社への活動意義報告

会社で注目技術の取り込み
各自の職務からヒントを。

活動内容の斬新さの欠如

新規テーマ
メンバー以外との接触

活動者の減少

上記条件を満たしつつ、従来のあらゆる立場での活動基盤
減少した状態でも活動の継続性

継続: 明るく、楽しく活動する。

XML Consortium

2007年度活動



1. 実装

テーマを決定し、2つのアプローチ
ビジネスプロセスモデリング---SOA
単純なサイト作成

2. 身近なIT業界を知る

各自の業務の紹介と着目技術の共有

3. 他団体との交流

技術者としての刺激

XML Consortium

1. 内容

フラワーアレンジ販売サイトの作成

2. テーマ設定理由

業務限定で、ビジネスプロセスの複雑化を防ぐ
メンバーの興味

3. 実施方法

SOA(サービス導出)、サイト作成の2つの並行実施
1. SOA---ビジネスプロセスモデリングから、サービス抽出
2. 画面構成からサイト作成

1. 概要検討

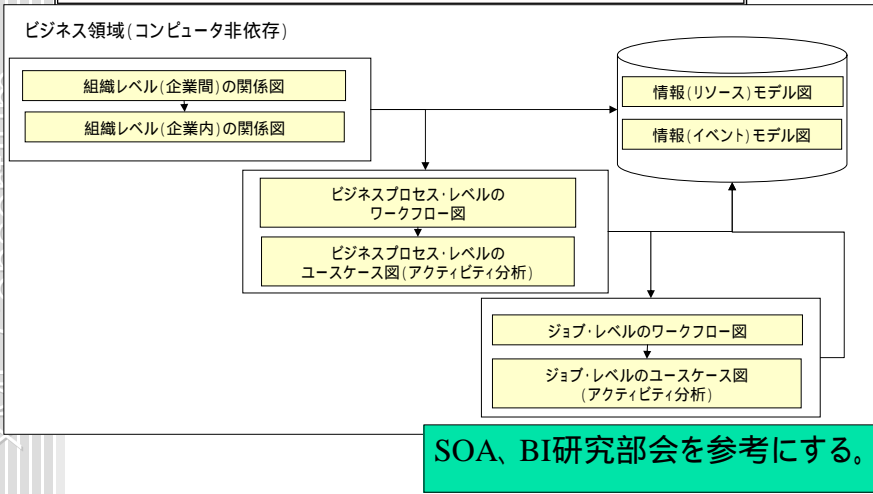
ビジネスモデル(どのような花屋にしたいか)

- ・販売物
 - 花、鉢植え単体の販売はなし
 - 独創的なフラワーアレンジメントのみ販売
 - アレンジの花はあらゆる種類を準備
- ・販売方法
 - ネット販売のみ
 - 予約販売、定期注文が可能。場所により当日注文可能
 - ビジネスモデル(特徴---上記以外)
 - カタログパターンを提供して顧客が選択
 - 顧客は、「もっと豪華に」「もっと安く」など感覚的に注文可能
 - 気分、うらない等によるアレンジ自動生成
- ・対外関係
 - ・農家のみ提携する(卸の場合、特徴のある花に限られる。)
 - ・いつでも全商品の在庫がある(農業共同組合)
 - ・対象顧客は全国
 - ・受注量に応じて、フラワーアレンジャーを追加する(アウトソーシング)
 - ・お金関係の考え
 - ・代引きを前提として、現状はお金に関しては考えない。

実装



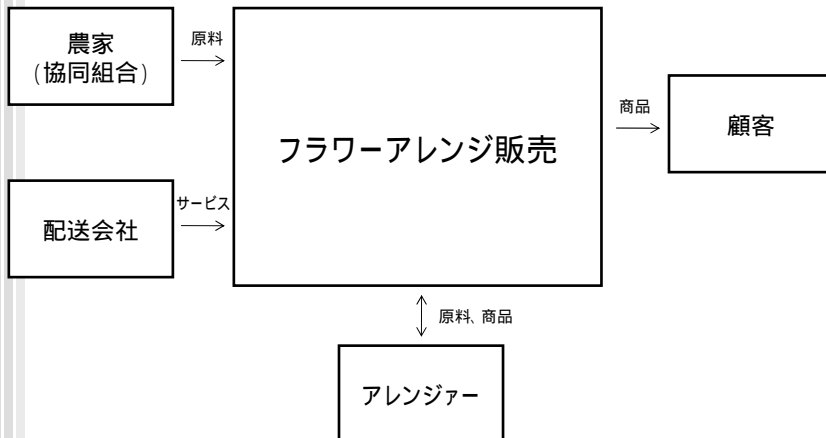
2. モデリング



対外関係



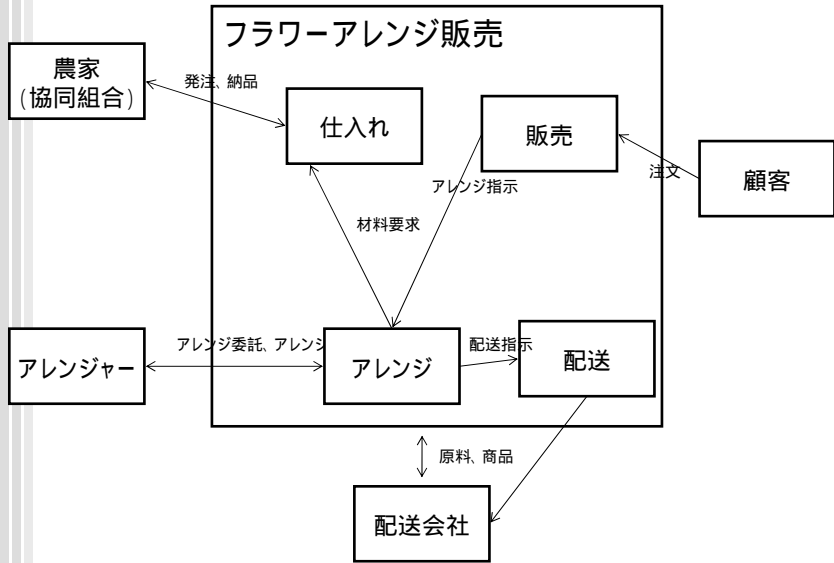
XML Consortium



内部関連



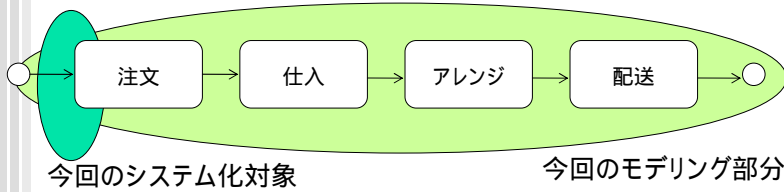
XML Consortium



ビジネスプロセス



XML Consortium



今回のシステム化対象

今回のモデリング部分

- 今後の作業
- ビジネスプロセスモデリング
 - 役割を精査する。
 - レーンを分離した業務タスクを洗い出す。
 - 流れをつなげる。
- システム化
- 要件を整理し、注文画面を検討する。
 - 実装する。



情報共有



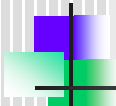
要望

他の仕事をしたい。
 現実に使われている技術を知りたい。
 トレンドを知りたい。

理由
 セミナーと現実にギャップを感じる。
 現場にいと現実的な状況が見えない。
 現実的な刺激を受けたい。
 参加者の人を知りたい

実施頻度

毎月1名
 実施内容
 現状の業務
 or 現状の着目技術
 or 周りで行われていること
 などの報告
 セキュリティ(条件)
 内部情勢は流さない
 聞いた内容は、口外しない。



外部団体交流



経緯

部会参加者が、限られる中、あらゆる刺激を受けていきたい。
 魅力ある部会運営
 部会参加者は、IT業界である。
 異なる考え方の意見も聞きたい。

これこそが、【コミュニティ】

実施内容

大学研究室ゼミ生との会合

実施日

7月&11月

実施内容

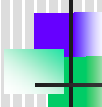
双方からの紹介
 ワークグループに分かれたワークショップ。



第一回座談会詳細



1. 座談会：(120分)
進め方説明(5分)：チーム分け
リーダー決定
1. メンバー紹介(15分)
■ ポジションペーパー(PP)による自己紹介(1分程度)
2. 議題
ワークグループに分けて話してみる(3チーム6人ずつくらい)
- 議題1：世の中のITの方向性(20分)：
 - こんなことできたらええなー
 - 普段こんなふうにつかってまっせ！
 - 議題2：企業システムの方向性(20分)
会社でのシステムはどうであつたらいいか？
会社でのシステムはどうあつてほしいか？
 - 議題3：関西とIT(20分)
関西でのITっていう特性はあるのか？
もし、仮に関西独自で考えたらどんなITがあるか？
3. グループで発表+まとめ(20分)
2. その他自由意見交換
学生さんへの質問
社会人への質問



第二回座談会詳細



1. 座談会：(120分)
進め方説明(5分)：チーム分け
リーダー決定
1. メンバー紹介(15分)
■ ポジションペーパー(PP)による自己紹介(1分程度)
2. 議題
ワークグループに分けて話してみる(3チーム6人ずつくらい)
- . ビジネスモデル
ITにおける産学合同で何ができるか？
 - . ITヒューマン
ITの担うための組織内ヒューマン構造(プログラマの地位)
 - . 地域独自性
ITにおける関西独自性のあるシステム
 - . IT環境
企業システムとパーソナルシステムの在り方
1. グループで発表+まとめ(20分)
1. その他自由意見交換
学生さんへの質問
社会人への質問

第二回座談会発表例



1. 地域独自性

おばちゃんシステム

携帯というものでなく象徴である自転車への組み込み機能:

井戸端会議情報収集

特売情報収集

突っ込み機能

情報はGridである。

移動状況に応じた情報が集められる。

こういうまとめを実施するにあたって……

携帯を含め小さくなった端末も使わない人は使わない。

多くの情報を集めれる方策が検索エンジンではなくあるべき。

等等

考えるべき課題が多く登場

座談会を通じて感じた内容



参加者意見

普段のかかわる年代とは異なり、生活スタイルから刺激を受ける。

研究開発内容も、現状のビジネスとは異なる観点のため、発想が養われる。

発想自体が、ユニークであり刺激を受ける。

こちらよりビジネスのことを話をすることにより、知らない世界への興味で喜ばれ、うれしい。

今後も継続を行いたい。

さらに、学校以外にも……

機会があれば、会合の申し出を行い、参加者が刺激をうける場を設けたい。



本年度の活動方針



XML Consortium

本来の業務による活動者の減少

参加者固定化による活動の閉塞感



参加者の身近な情報による情報共有

新たな実装への挑戦

社内で直目されるSOAへの取り組み

参加者とは異なる環境の方々との交わり

関西は、今日も元気に楽しく、新新に。

刺激的に！